

令和八年度

龍谷大学付属

平安中学校入学試験問題

受験番号

国語

解答上の注意

- 一. この問題用紙は「はじめ」の合図があるまで開いてはいけません。
- 二. 答えはすべて解答用紙の決められたところに書きなさい。
- 三. 解答用紙の決められたところに受験番号を書きなさい。氏名を書いてはいけません。
- 四. 問題を読むときに、声を出してはいけません。
- 五. 問題内容についての質問は受けません。
- 六. 印刷が読みにくいときは手をあげて監督者を呼びなさい。
- 七. 「やめ」の合図があつたら、解答用紙をおもてに向け、問題用紙を解答用紙の上に置いて、回収が終わるまで席を離れてはいけません。(問題を持ち帰ることができません)

[illegible]

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 人間の行う知的活動には二つの種類があるといつてよいでしょう。ひとつは苦しみを減らす活動で、これを「文明」と呼ぶことにします。もうひとつは喜びをもたらす活動で、これを「文化」と呼びましょう。

医療はケガや病気を治療し、予防しようとするのですが、それは苦しみを減らそうとする努力です。水道事業も、渴きの苦しみや汚れた水を飲むことの危険性、遠くまで水を汲みにいかなければならない不便さをなくそうとするものです。交通ルールは、事故を防ぎ、安全でスムーズな道路の運行を作り出そうとしています。これらはなくてはならない必要なものを生み出すという意味で、文明だといえるでしょう。

他方で、素敵な音楽を演奏する。美味しい料理を作る。楽しいお祭りやイベントを運営する。脚本を書いて、お芝居を興行する。これらは人々に喜びを与えるものですから、文化といえるでしょう。文化は、命の維持を超えた価値を作り出し、人間らしい生活を提供してくれます。

もちろん、全てのものが二つにきちんと分類できるわけではありません。スポーツはやって楽しいものですが、同時に健康づくりや病気の予防にもなるでしょう。家は、人が雨露をしのいで休息と睡眠をとる場所ですが、外見や※調度が美しく、心のゆとりを与えてくれるものにもなります。これらは、文化と文明の両面を持っていると言えます。

I、a は不必要な贅沢品だということではありません。私が、東日本大震災が起こった三カ月後くらいに被災地にお見舞に行ったことです。まだ公共施設で寝泊まりしている人たちが、お子さんから高齢者の方まで、小説や勉強になる本が読みたいと訴えていました。被災した人々は、まだまだ生活が厳しい中でも、必

要な情報を知りたいからというだけでなく、a としての楽しみを得ようとして書物を探していたのです。小さな仮設図書館が開かれると、ひっきりなしにいろいろな年代の方が本を借りにきました。このときほど、人間は根源的にaを必要としているのだと実感したことはありません。aを求めるのは人間であることの証です。

今、文化と文明という大きな枠組みを述べましたが、※探究型の授業のテーマとなるのは、このどちらか、あるいは両方に関わっているはずで、II、苦しいことを減らそうとするのか、楽しいことを増やそうとするのか、あるいは、その両方を兼ねたものかです。

探究型の授業を行うのに、一番大切なのは、学ぶ側が学ぼうとする意欲を持っているかどうかです。初等中等教育で行うべき最も大切な教育は、生徒に一生学ぼうとする動機づけを与えることです。これが※蔑ろにされては学習が成り立たず、学習のないところには教育は存在しえません。

では、人はどういうことに学ぼうとする意欲を持つでしょうか。「知りたい」という気持ちには、大きく言って二種類の動機があると思います。ひとつは、世界がどうなっているかが分かるような、一種の見取り図のようなもの、あるいは地図のようなものがほしいという願望です。これは子どもの頃からの好奇心に近いものです。

もうひとつは、何かができるようにになりたいという気持ちです。これは、「ケーキの作り方が知りたい」「自動車の運転ができるようになりたい」「うまくだんすが踊れるようになりたい」といったように、「ある行為ができるようになりたい」という気持ちのことです。

そしてこの何かができるようにになりたいという気持ちは、「何かを達成して、自分が世界の中で効力を持てる存在になりたいという

気持ち」でもあります。自分を含めた誰かの苦しみを取り除きたいとか、だれかに楽しさを与えたいといった目的を持ち、そのために何かができるようになりたいというのが②人間の学びへの動機になります。ごく単純に言えば、楽しいこと、面白いことをやりたい、そして嫌なことを避けたいという気持ちに素直になり、そのために何かをやりたいと思うことが動機づけとなるのです。

何かをうまく達成するためには、先人たちの残してくれた知識が役に立ちます。ひとつ目の「見取り図や地図のようなもの」がそれにあたります。逆にいえば、何かをできるようにしたい。それで苦しみを取り除いたり、楽しみを増やしたりしたい、そういう気持ちがあれば、知識を求める意欲が湧かないのです。いくら先人の築いた知識があっても、自分の行動の役に立つてくれなければ意味がありません。

では、どうすれば、何かができるようになりたいと思うでしょうか。それは、まさに何かをやってみたり、あるいは、だれかが何かをやっているのを見たりして、それが苦しみを取り除き、楽しみを与えてくれるのを知る経験から生まれます。

Ⅲ、近所のレストランがとても素敵な料理を出してくれます。家族や友人と楽しく食事をすると、みんな仲がよくなります。そうなれば、こんな店をやってみたいと思うことでしょう。自分なりにやってみたい。ここをこうしたい。もつとうまくやってみたい。こういう気持ちだが、私たちの中に生じてくるのは不思議ではありません。

自分の好きな料理を出そうとして、レストランを経営するには、どのような技術と知識が必要でしょうか。調理の技術だけで済むわけがありません。栄養学、※公衆衛生、関連する※法規、食品と流通の知識。これだけでもまだ全然足りません。オリジナルな商品がないと他店との競争に負けそうです。店の外見も内装も、清潔で、オシャレにしないといけません。そして、店舗を経営するには、経

営学の知識が必要です。化学から美術、保険から人間関係の心理学まで、何でも関係してきます。一見すると、自分と縁遠いと思った知識も、お店を経営しようすると全部関係してくることがわかります。とてもよいレストランを作ろうと思ったら、たくさん学ぶべきことがあることに気づくでしょう。

このように③具体的に何かができるようになりたいという意欲が、知識と※スキルの必要性を理解させ、さらにそれを改良しようとする気持ちにつながります。探究の時間の根底を支えているのは、何かをしようとする意欲であり、動機です。これが、行為に関係する知識を得ようとする探究につながります。

教える側は、学ぶ側が意欲を持てるような経験をさせてあげなければなりません。現代の教育格差とは、子どもが家庭で与えられる経験の格差も大きく反映していると考えられます。学校は④それを補う必要があると思います。

さて、今取り上げたレストランの話は職業に直結してきますね。ある職業に関心を持つて、それにつこうと努力するのは大切です。でも、学校で学ぶべきは、職業のために必要な技術や知識、その準備となる常識だけではありません。

たとえば、学校のクラスでは、将来につきたい職業は人さまざまでしょう。では、⑤方向性の違う人が集まっても話し合える共通のテーマは何でしょうか。

たとえば、みんなの住んでいる町の人口が減っているとしましょう。人口は、その町でどのような職についたとしても共通の問題です。あるいは、川の周りに堤防を作ることになったけれど、魚が減ってしまうのではないかなど、自然環境に関する問題もみんなに共通しています。これらは、住んでいる人みんなの利害に関わるので、政治的な問題ということができるよう。政治とは、異なった利益を調整して、集団の※秩序を作り出していく活動のことです。

民主主義社会では、政治は言論の活動によって行われます。

先ほど、「苦しみを取り除き、楽しみを増やすことは、探究する動機になる」と書きました。しかし、ある人の苦しみを減らしたり楽しみを増やすことは、ときには、その逆の効果を他の人に与えたりします。川で魚を釣ることを楽しみにしている人がいる一方で、あまりに多くの釣り人が来て、その地域の魚が減ってしまうと地域住民には不利益です。⑥ 利害の対立をうまく解消することは政治の役割です。きちんとデータを出して、理由のしっかりした話し合いをして、双方が納得できる結論を導き出すのです。

あるいは、同じ職業を目指すのでも、ただ就職するためのスキルや知識に関心を持つことから、⑦ 一歩前に進んだ考えに立って、探究してみましよう。

たとえば、レストランについて考えてみましょう。そもそもレストランとは何でしょうか。自宅で食べるのではなく、外食する理由は何でしょうか。レストランで食べたい料理とは何でしょうか。レストランに人は何を求めているでしょうか。そして、美味しい料理とは何でしょうか。もっと根本的に、「食」とは人間にとって何なのでしょうか。こういうテーマなら、料理人になりたい、レストランを経営したいと思っっているだけのテーマではありません。これらのテーマは、外食産業全体のテーマであり、だれでもが外食をしますので、だれにとってもテーマになります。

それらは、ただ今ある仕事先で自分が働くというよりは、新しい産業や新しい文化を生み出す大きな発想のもとになるようなテーマだと言えるでしょう。探究の動機とそこから生まれてくるテーマは、日常生活を送るなかでの素朴な疑問から生まれてくるものです。

（河野哲也 『問う方法・考える方法』）

※（文中のことばの意味）

調度 … 家具。

探究型の授業 … 自ら課題を発見し、解決する学習。

蔑ろ … いい加減にあつかうこと。

公衆衛生 … 社会の人たちの健康、またそれを守る方法。

法規 … 法律上のきまり。

スキル … 経験によって得た能力。

秩序 … 正しい順序や筋道を保つこと。

問1

I
III

 にあてはまることばの組み合わせとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | |
|---|---|-----|----|-----|-----|------|
| ア | I | つまり | II | しかし | III | たとえば |
| イ | I | しかし | II | そして | III | すなわち |
| ウ | I | さらに | II | しかし | III | つまり |
| エ | I | しかし | II | つまり | III | たとえば |

問2 線①「人間の行う知的活動には二つの種類がある」といってよいでしょうか。とありますが、「二つの種類」とはどのようなものですか。「活動」につながるように、文中からそれぞれ七字でぬき出しなさい。

問3

a

 に共通してあてはまることばを文中から漢字二字でぬき出しなさい。

問4 ——— 線② 「人間の学びへの動機」とありますが、これに**あてはまらないもの**を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 何かを達成して自分が世界の中で効力を持ちたい。
- イ 興味がない分野でも就職のために知っておきたい。
- ウ 自分の嫌なことや苦しいことから逃^にげたい。
- エ 楽しいことのために先人たちの残した知識を知りたい。

問5 ——— 線③ 「具体的に何かができるようになりたいという意欲」とありますが、この「意欲」はどのように生み出されますか。それを述べた一文をぬき出し、はじめの五字で答えなさい。句読点なども字数に数えます。

問6 ——— 線④ 「それを補う」とありますが、どういうことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 将来の仕事に役に立つことの見通しを持たせて、家庭の経済的な事情の差で生まれる教育の質の差をうめること。
- イ 子どもたちが生まれながらにそれぞれ持っている可能性をつぶさないように、各家庭での体験の差を減らすこと。
- ウ 子どもたちが主体的に取り組むことができて、その上でそれぞれの家庭環境のちがいによる体験の差を少なくすること。
- エ 家庭環境はさまざまであっても学校ではみな同じ体験をさせて失敗をしながらも最終的に「できた」と感じさせること。

問7 ——— 線⑤ 「方向性の違^{ちが}う人が集まっても話し合える共通のテーマ」とありますが、このテーマに**あてはまらないもの**をあとから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人口の減少
- イ 自然の破^は壊^{かい}
- ウ レストランの経営
- エ 外食の喜び

問8 ——— 線⑥ 「利害の対立をうまく解消することは政治の役割です」とありますが、これと同じ内容の一文を文中からぬき出し、はじめの五字で答えなさい。句読点なども字数に数えます。

問9 ——— 線⑦ 「一歩前に進んだ考え」とは、どのようなものですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の将来の直接的な知識やスキルにとらわれず、大きな発想のものを探そうとする考え。
- イ だれかのための楽しみを増やしたり苦しみを減らしたりするために、積極的に学び続ける必要があるという考え。
- ウ 自分の将来のために必要な知識やスキルだけを他とは切り離^{はな}して、深く習ったり覚えたりする方がよいという考え。
- エ 自分よりも後の時代を生きる人たちのために、苦しみを減らす努力をしてよりよい社会を築こうとする考え。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

真は梨々のいる学校に中学三年生で編入してきたが、将来は父親の思いとは違い祖父のように、イスのデザインをしたいと考えている。梨々は学校では変わり者とみられているが、イスを作る大きな会社の娘で、その会社でモデラー(デザインから実物に起こす仕事をする人)になるつもりでいる。その二人が意気投合し、二人で組んで『全国学生チェアデザイン ※コンペ』に出場することになった。

「あなどれないな、梨々って」
彼女は 得意げな顔をした。

「あたりまえじゃん。これでも十歳のころから工場に出入りしてて、中学一年から設計、木工、鉄工、布張りの全行程で修業してるんだから。みんなは遊びだと思ってるらしいけど、わたしは本気だもん。今は中学生っていうと子ども扱いだけど、おじいちゃんは一十五歳で本格的にイス制作の工場に弟子入りして、十八歳で一人前の職人になって、三十歳で海外に修業に行ったんだ。わたしももうすぐ十五歳だからね。ほんと学校なんか行ってる場合じゃないわけ」
「そっか」

梨々の勢いに圧倒されたぼくは、そっか、しか言えない。情けないな。

「で、真のアイディアはわかったけど、まだ形になってないって感じだよ。これじゃモデラーとしては、先に進めない」

「うん。そうだね。じっくりアイディアを煮詰める」

「じっくり……ね。①でも言わせてもらおうけど」
梨々はいつになく、きつい口調だ。

「もう四月の下旬だよ。七月上旬には、原寸模型を写真に撮って、プレゼンパネルを作って、提出しなきゃならないんだよ。その予選

を通過できてはじめて、実物を搬入して最終選考。だから、プレゼンパネルだつて、時間かけてちゃんと作らないといけないでしょ。つてことは、原寸模型完成させるまでに、あと二か月ちょいしかないわけ」

「うん、知ってる」

「でもデザインがしっかりできてないと、実物大どころか、五分の一模型さえも作れない。一回作ってそれで終わりじゃないんだよ。それから何度もデザイン修正、原寸模型修正、すわってみる、デザイン修正、原寸模型修正、すわってみる、のくり返しなんだよ。早くデザインを終わらせてくれないと、間に合わないよ。わたし、プロのモデラーみたいにはっぱと作れないからね」

早口の梨々の勢いに押されて、ぼくは少し頭を後ろに引く。

「……うん、わかつてる。ごめん」

「あやまんなくていいからさ。デザイン、ちゃんとやってよ。テストの勉強ばかりやって、プロジェクトのほう、ぜんぜん進めてなかったんでしょ」

② カチンと来た。

「テスト期間中だつて、いちおうデザインは考えてたよ」

ウソだ。十日間、なにも考えなかった。手だけはスケッチをしていたけど、ただ鉛筆を走らせていただけで、じつはまったく考えていなかった。

「もっとデザインに集中してよ。時間がないんだから。あと、図面はまず五分の一模型用に描いてね」

なんだか、怒られてるみたいで気に入らない。

「たしかに模型を作るのも大変だろうけど、最初のデザイン段階は、もっと重要なんだよ。これはデザインのコンペなんだ。デザインにこそ時間をかけないと。ただ木を削って組み立てるのは時間どおりに進められるだろうけど、デザインはちがう。何時間コツコツやつたら必ずできるもんじゃないんだよ。手じゃなくて、頭をつか

うんだからさ」

「なにそれ」

急に梨々が立ち上がった。

「なんか、上から目線じゃん？」

「え？」

「デザイナーが上で、モデラーが下みたいな言い方じゃん」

「そんなこと言っていないよ。ただ、デザイナーはアイディアを出す仕事だから、一日何時間やったら必ず成果が見える手作業とはちがうって話」

「どうせこっちは※ブルーカラーだよ！ 真みたいに頭もよくないしね。わたし帰る！」

「な、なんだよ急に」

梨々はバックにノートやペンケースを詰めて、ジャケットをはおった。

「おい、ちょっと待てよ」

引き留めるのも聞かずに、梨々はずんずん歩いてじいちゃんに頭を下げると、さっさと帰ってしまった。

玄関のドアがゆっくりと閉まる。ぼくはただ、ぼーっと、それを見ていた。

だんだん、腹が立ってきた。

「なんだよ、あいつ。結局女って※ヒステリーだよな。ふざけんなよ」

大きな声で文句を言うと、^⑥きびすを返す。

テレビを消したじいちゃんと、目が合った。

「真、ケンカしたのか」

「べつに。あいつが一人で怒っただけだよ。まったく気まぐれなやつさ」

「ちよつとここにすわれ」

^③じいちゃんが、めずらしくまじめな声を出した。

ぼくは茶の間の畳の上に、あぐらをかいだ。

「なに？」

「おまえ、まさかデザイナーが上で、モデラーは下みたいに考えちゃいねえよな？」

「え、そんなこと」

考えたことないよ、と言いたかった。けど、どこかでそんなふう
に思っていたかもしれない。

ぼくがあこがれているのは建築家やデザイナーだ。モデラーじゃない。もしかして、気がつかないうちに、梨々を傷つけるようなことを言ったのだろうか。

「へっ、顔に出てらあ。^Aがおまえで、梨々ちゃんは^Bか？ そりやたしかに仕事の分担上はそんなふうに考えるかもしれないね。ま、本物のモデラーは頭もかなり使うけどな。真、頭だけでつくくなつたって、ろくなもんできねえぞ。それに、職人を怒らせるようなデザイナーに、ろくなやつはいねえんだ。一流のデザイナーは、そんな態度で職人にあたらねえよ。仕事は※ファイティ・ファイティだ。どっちが上も下もねえぞ。ちゃんとあの子んち行ってあやまつてこい。あんないい子、いねえぞ。まだ中学生だつてのに、いろいろよく知ってらあ。ありや、すげえモデラーになるぞ」

「……」

あやまりたいような、あやまりたくないような。

たしかに変なことを言ったかもしれない。けど、あんなふう
に帰っちゃうなんて、大人げないだろ。十歳の※力だつて、あんなこと
しないぞ。

「なんだ、ふてくされてんのか。そんじゃ聞くが、おまえ一人で
きんのか？」

「そりや、できないよ」

「だろ？ ほんとはな、イスのデザイナーってのは、^モ模型くらい
自分で作れんだよ。原寸模型まで自分で作る人もいるぞ。おまえの好

きな※イームズ夫妻なんか、ひとつのイスを作るのに、モックアップ原寸模型を五十も百もつくつたらしいぞ。おまえにそれができねえなら、あの子に頼むしかねえだろ」

「……わかってるよ」

ぼくはじいちゃんの目を見ることができない。

「いいか。よつく聞け。おまえさつき、※一〇五度にしたいって言つてたな。④いい角度だ。軽く寄りかかるのに。©いいあんばいだ。

人間関係だってそうだぞ。そりゃな、九〇度なら一人で立つてられる。けど、人間関係はそれじゃうまく行かねえんだよ。かといって、ソファや※寝椅子シエーズロングみたいにごろつと寄りかかるのも、良くねえ」

「どういう意味？」

ぼくはやつと、じいちゃんの目を見た。

「つまりな、そんな具合に思いつきだれかに寄りかかると、相手が支えきれなくなっちまう。ちよいと寄りかかる程度がいいんだ」

「……」

「でな、向こうも困ったら、こっちにちよいと寄りかかる。向こうとこっちで寄りかかり合つて『人』って漢字ができてみたいだろ。

人間なんてのは、だれだつてだれかに寄りかかつて生きてんだよ。一人で直立してるやつなんて、いやしねえ。わかるか？ おまえは今、あの子にちよつとどころか、かなり寄りかかつてんだよ。なのに、直立して一人で立つてるような顔してやがる。わかるか？」

じいちゃんの言葉を、頭の中でくり返した。ぼくはたしかに、梨々に寄りかかつているかもしれない。梨々が今ぬ抜けたら、ぼくはすぐに倒れるたおだろう……。

⑤突然、すべてを理解できた気がした。

そうか、一〇五度どころじゃなくて、ぼくは思いつき梨々に寄りかかつているんだ。しかも梨々が寄りかかつてくることはない。なのに、ぼくはえらそうに、一人で直立してるみたいになるまっただ。職人は黙だまってる的な、独裁者みたいな態度だったかもしれない。

それって、まるでオヤジそっくりじゃんか。

「……わかった」

「わかりやすい。ほれ、さっさと行けつて」

ぼくはうなずくと、財布とスマホをつかんで走り出した。梨々はまだ駅にいるだろうか。

(佐藤まどか 『一〇五度』)

※(文中のことばの意味)

コンペ：競技会。

ブルーカラー：工場や建設現場などで肉体労働につく人々。
ヒステリー：感情をおさえられず激しい興奮をむき出しにする状態のこと。

フィフティ・フィフティ：責任を平等に持つ状態のこと。

力：「真」の弟。

イームズ夫妻：アメリカのイスをデザインする夫婦。

一〇五度：「真」はイスの座面と背もたれの角度を一〇五度にしたと考えていた。

寝椅子：寝ころべるイス。

問1 線①～③のことばについて文中における意味として、最もふわしいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 得意げな顔

ア 無関心な顔
イ 意地悪な顔
ウ 鼻高々な顔
エ 好意的な顔

② きびすを返す

ア 集中してにらみ返す
イ 心の中でさらに言い返す
ウ かかとをあげてけるふりをする
エ 振り返って後戻りをする

③ いいあんばい

ア ちょうどいい具合
イ ちょうどいい方向
ウ ちょうどいい重さ
エ ちょうどいい距離

問2 線①「でも言わせてもらうけど」とありますが、真に言いたかったことは何ですか。あとの文章のⅠ・Ⅱにあてはまることばを、文中からそれぞれ指定された字数でぬき出しなさい。

コンペに提出するまでにⅠ五字Ⅱ七字
しいということ。

問3 線②「カチンと来た」とありますが、なぜですか。その理由としてふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 梨々の言うことが当たっていてそのとおりだが、一方的に怒られているようにおもしろくないから。
イ 梨々の言うことが全く見当はずれで、言いがかりのようでありにもびつくりしたから。
ウ 梨々の主張は理解できるが、こちらの状況をよく知りもしないで責めるから。
エ 梨々の主張は図星であったが、わかってもしないのに決めつけられて気分を害されたから。

問4 ——— 線③「じいちゃんが、めずらしくまじめな声を出した」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 真の偏^{かたよ}った考えを改めようとしたから。
- イ 真の失礼な態度を責めようとしたから。
- ウ 真の差別的な言葉を正そうとしたから。
- エ 真の疲れた体を休ませようとしたから。

問5 [A]・[B]にあてはまることばを、文中からそれぞれ漢字一字でぬき出さない。

問6 ——— 線④「いい角度だ」とありますが、「じいちゃん」はイスの背もたれの角度のことだけではなく、何のことを言っていますか。文中から四字でぬき出さない。

問7 ——— 線⑤「突然、すべてを理解できた気がした」とありますが、どういうことですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 真は梨々の怒^{いか}りが理解できず梨々のヒステリーに振り回され腹を立てていたが、じいちゃんにがまんも必要だと言われ最初は納得^{なっとく}できなかった。しかしイスの角度を例に人との関係性を説明され、彼女の大切さがわかったということ。
- イ 真は梨々が怒っている理由はうすうすわかっていたが、じいちゃんに梨々の素晴^{すば}らしさと自分のいたるなさを指摘^{してき}されてふてくされた。しかし分度器の話^{はな}を例に人との関係性を説教され、自分では何もできないとわかったということ。
- ウ 真は梨々の気まぐれに振り回され腹を立てていたが、じいちゃんに真は大人げないと指摘され頭ではわかってはいるが認めたくなくて強がっていた。しかし人と人との関係はお互^{たが}い様だと説明されて、がまんも必要なだと理解したということ。
- エ 真は梨々が怒っている理由がわからず自分も腹を立てて、じいちゃんに自分の未熟さを指摘されてもそれを認めたくなかった。しかしイスの角度を例に人との関係性を説明され、梨々がなぜ怒ったのか、そして彼女の大切さを理解したということ。

〔三〕 次のことばに関する各問いに答えなさい。

問1 次の――線にあう漢字をあとから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 彼の父は市役所にツトめている。

ア 勤 イ 努 ウ 務 エ 勉

② 困難を乗りこえて、ついに成功をオサめた。

ア 納 イ 治 ウ 収 エ 修

③ 今回の作品はカイ心のできた。

ア 回 イ 会 ウ 改 エ 快

④ 給料の値上げを、会社とコウし渉する。

ア 交 イ 考 ウ 校 エ 高

⑤ 兵士が戦地からキか還する。

ア 機 イ 帰 ウ 気 エ 期

問2 次の四字熟語の□に入る数字を、それぞれ漢数字で答えなさい。

① □差万別

② □方美人

③ □転八倒

④ 二束□文

⑤ 三寒□温

問3 次の()にあてはまることばとして、最もふさわしいものをあとから一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。同じものを二回以上使えません。

① 母とけんかをして()と悩んでいる。

② ()とわき出る泉。

③ 病気が治り、食欲が()とわいてくる。

④ 秋の雨が()とふる。

⑤ 順番がなかなか回ってこないのので()する。

ア もんもん イ いらいら ウ こんこん

エ しとしと オ しんしん カ がつつ

キ すいすい ク もりもり

四 次の――線のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答えなさい。

- ① 天皇へイカが京都においでになる。
- ② 祖父のバンネンはしあわせだった。
- ③ 話をムし返すことはしないでほしい。
- ④ 母といっしょにサイバン所に行く。
- ⑤ 地球オランダカのためか夏は異常に暑い。
- ⑥ 賃金が支払われず生活費に困る。
- ⑦ 時間の使い方を工夫する。
- ⑧ 昼間と夜の長さが等しい春分の日。
- ⑨ 紅葉が美しい街路樹。
- ⑩ 船頭多くして舟山に登る。

これで問題は終わります。